

地域情報（県別）

【埼玉】体制充実で救急倍増、脳と循環器、消化器領域を網羅-東埼玉総合病院病院長の三島秀康氏に聞く◆Vol.1

2019年10月14日（月）配信 m3.com地域版

周辺の医療資源が乏しかったことから、1973年、有志の医師たちによって開設された東埼玉総合病院。多くの地方病院と同様に時代の変化に伴ってその姿を変えてきたが、現在は急性期医療に注力する中小病院として運営を続ける。体制の充実化により年間の救急受け入れ件数はここ10年で倍増し、診療面では消化器内科から脳神経外科、循環器内科まで幅広く網羅できるようになった。同院の歴史と診療面の特徴、ビジョンについて病院長の三島秀康氏に聞いた。（2019年6月7日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら

——まずは病院の成り立ちについてお聞かせください。

当法人は1973年、埼玉県北葛飾郡杉戸町に東埼玉病院を開院しました。当時は今よりもさらに周辺の医療資源が乏しく、そういった状況を憂慮した日本医科大学出身の医師が同窓の仲間と4人で病院を作ったと聞きます。開設当時は周辺の人口が増加傾向にあり、また1961年に始まった国民皆保険制度の普及によって医療の需要が増したことで患者数が増加、病院は病床数と診療科を増やして1998年には東埼玉総合病院になりました。

しかし、多くの地方病院と同様に当院も時代の変化の影響を受けました。高齢化に伴う疾病構造の変化や医師不足などにより、総合病院から高度専門病院へと機能を転換、さらに急性期を主とする中小病院へと移り変わりました。建物の老朽化により、2012年、約2km離れた隣の幸手市に新築移転しました。

私が入職したのは2000年です。大学医局時代にたまたま当院の創業者の子息が私の下で働いていて、私の専門分野である呼吸器内科の常勤医師が病院にいなかったことから「手伝ってほしい」とオファーを受けました。



三島秀康病院長

——運営母体の法人は貴院だけではなく、複数の病院やクリニックなども運営されていますね。

はい。当院が開院した翌月に医療法人社団「仁愛会」が設立され、この法人が1983年に神奈川県海老名市に海老名総合病院を開院しました。2003年に「ジャパンメディカルアライアンス（JMA）」とその名を変えた後は、関連法人の医療法人社団「静岡メディカルアライアンス」が2011年に静岡県下田市に下田メディカルセンターを開院、一方のJMAでは2016年に神奈川県座間市に座間総合病院を開院しました。JMAは厚生労働省から地域医療への貢献と実績が認められて、2009年には「公共性の高い医療の担い手」を示す社会医療法人に移行しました。グループでは、4つの総合病院の他に、7つのクリニックと3つの介護老人保健施設、5つの特別養護老人ホームなどを運営しています。

——貴院は救急医療に注力しているとのことですが、年間にどれくらい受け入れているのですか？

2900件ほどで、幸手市と杉戸町の救急案件の約3割をカバーしています。年間受け入れ数は2004年に1466件、2007年に1393件、2009年に1183件と減少傾向でしたが、2010年に脳神経外科医が24時間365日常駐して脳血管障害に対応する脳卒中ケアユニット（SCU）を開設してからは、2010年に2437件、2011年に2566件とほぼ倍増しま

した。以来、一貫して2500件以上を保ち続け、救急対応を専門に行う救急医が1人入職したことでさらに増えました。



東埼玉総合病院の外観（同院提供）

——SCUを備えているほかに、貴院の診療面や体制にはどんな特徴があるのでしょうか。

脊椎の病気や糖尿病の治療にも力を入れています。2005年に開設した「埼玉脊椎脊髄病センター」では、この分野を専門とする常勤医が3人在籍しており、特に脊柱管狭窄症の手術に力を入れています。また、糖尿病内科も近隣の医療機関の中では最も体制が厚く、常勤医が3人在籍しています。

消化器内科の体制が充実したことも最近のトピックですね。昨年3月までは常勤医が1人しかいませんでしたが、4月に2人加入し、さらに今年の春に2人加わって計5人の体制になりました。人員が増えたことで昨年5月には超音波内視鏡を導入することができ、検査数と行える処置のバリエーションが増えました。大学病院をご紹介していた患者さんの検査、治療を完結できるようになると同時に、近隣で超音波内視鏡を保有しているのは当院のみなので、茨城西南医療センター病院など近くの中核病院からも患者さんをご紹介いただけるようになったのです。

消化器内科から脳神経外科、循環器内科まで幅広く網羅できているのが当院の診療面における大きな特徴と言えるでしょう。

——先生は新築移転後の2012年に病院長に就任されました。どんな病院をコンセプトに運営を続けてこられたのでしょうか。

新築移転が決まった際に、職員間で新しい病院のコンセプトを話し合いました。地域に必要とされる病院とはどんな病院か、地域の発展を支えるために医療ができることは何かを議論し、「住民や医師会から頼りにされ、地域に愛される、地域になくってはならないインフラに成長しよう」と5つの夢を掲げました。

(1) 日本の先進的な病院の一つになる、(2) 地域密着型中小病院の新しいモデル、(3) 幸手100年の繁栄の礎になる病院、(4) ブランドや働きがいに魅かれて、職員が集まる病院、(5) 経済的に自立した病院——これらがその夢です。

患者さんご家族に対しては、単に病気個々の診断と治療を行うのではなく、包括的なライフサポートができる病院であることをめざしてきました。

◆三島 秀康（みしま・ひでやす）氏

1983年北海道大学医学部卒業。旧国立病院医療センター、関東通信病院、カナダ・マ・ギール大学ミーキングス・クリスティ研究所留学、帝京大学第三内科などを経て、2000年から社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス東埼玉総合病院にて勤務。2012年に院長就任。保有する資格は日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本内科学会総合内科専門医、認定病院総合診療医、ICD制度協議会ICD認定医、日本医師会認定産業医、身体福祉法指定医師（呼吸器障害）など。

【取材・文・撮影＝医療ライター庄部勇太】



